

WAM助成事業

鎌倉市における  
子どもの学習支援事業  
～Spaceふらっと大船～

一般社団法人  
インクルージョンネットかながわ

# 1. 事業の概要：取り組んだ課題

H27年度～鎌倉市における自立相談支援事業を受託

生活困窮世帯の子どもたちへの支援の必要性

H27年度 WAM助成により、子どもの学習支援を開始

H28年度～鎌倉市から学習支援事業を受託

多種多様な課題を抱えた世帯へのまるごと支援の必要性  
配慮が必要な子どもへの学習以外の個別支援の必要性

困難を抱える子どもへの支援は、行政事業だけではできない

H28年度 WAM助成により、独自の子ども支援を開始

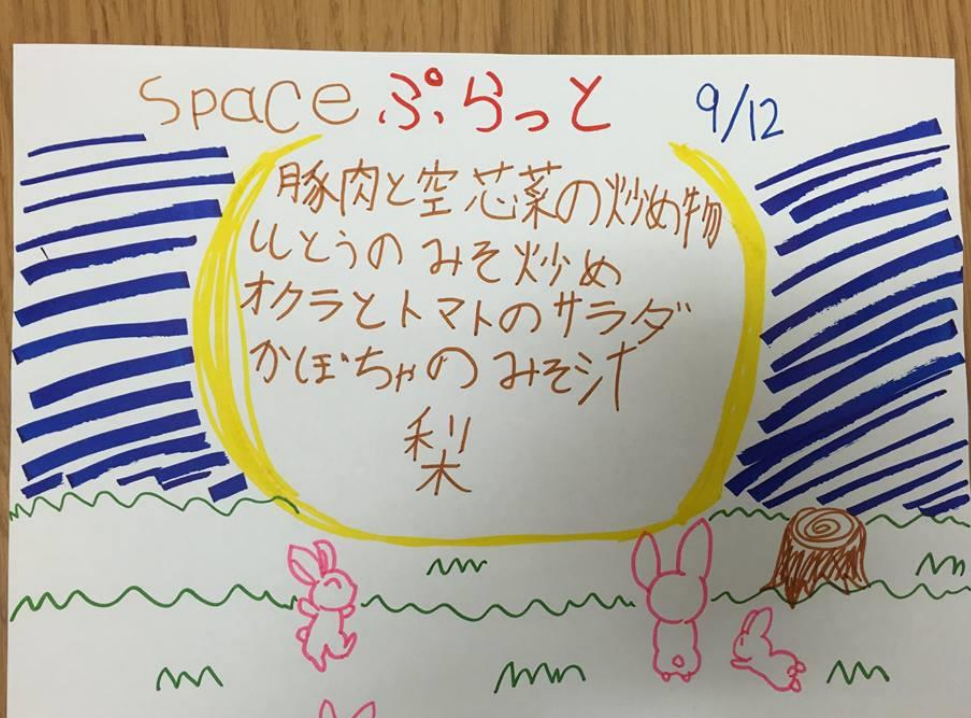
# 1. 事業の概要：事業内容

## Spaceぷらっと大船を開設し・・・

- 生活困窮世帯の子どもの学習支援事業
  - 個別支援、居場所機能を中心に
- 食を通じた子どもの居場所事業
  - 子どもの孤立の解消、食育
- 生活困窮世帯の子どもと家族への相談支援
  - 面談による世帯の困難状況の把握と支援
- 地域啓発（シンポジウム、パンフレット等の広報活動）
  - 地域に協力者を増やす
  - 福祉関係者や学校等との連携をすすめる
- 人材育成
  - 配慮が必要な子どもたちを支援できるボランティアの育成







## 2. 事業の成果

- 困難を抱えた子どもへの個別支援を実施
- 家族全体への相談・支援の実施
- 地域での協力者発掘、ボランティア等の人材育成



- 子どもたちにとって、学習のみではない安心できる居場所として認知されてきた。
- 家族が抱える複合的な困難への支援が可能となった。
- 子どもたち、家族、地域のボランティア・支援者（寄付等）、福祉関係者、学校などのつながりが生まれ、地域と密着した取り組みにつながっていった。

Spaceふらっと大船は、WAM助成終了後も  
地域に支えられて運営しています！

### 3. 事業実施において工夫した点

- 子ども1人ひとりの状況を把握する
  - 子どもが抱える様々な困難、子どもの背景にある家族の困難、関係者(学校等)の関わり方に気を配る。
- 事業を行うプロセスや協力し合えた人とのつながりを大切に
  - 実施回数や成果物(冊子等)のみでなく、子どもや家族、地域との関係構築を重視して事業を進めることで、支えあえる地域づくりが可能となる。
- 行政委託事業との棲み分け
  - 鎌倉市から委託されている学習支援事業と、WAM助成により実施する委託外事業を、事務的に明確に区分し、予算の配分を適正に行う。



## 4. 応募にあたっての 事業計画立案のポイント

- 問題意識と何を解決したいのかを明確に
- 団体の経験や当事者の声に裏付けされた問題提起
- 団体の実績や連携機関の力を発揮できる事業に
- 潜在的な問題やニーズを顕在化させ、波及性のある事業となるように(この地域だけでの問題ではないはず)
- 行政委託事業や自主事業のみではできないことを、助成事業として実施する
- ひとつひとつの事業が実現したいこと(課題解決)にどうつながるかを考える
- 事業ごとの関連性(相乗効果)を意識しての計画作成

# 5. 成果を出すためのポイント

## ①当事者(子ども)本位

- 誰のための事業なのか、何が必要とされているのかを常に意識しながら進めることで、本当に必要な成果が得られる

## ②助成終了後につなげる

- 助成の成果が助成終了後に活かされるように、助成期間中も助成終了後への生かし方を考えながら進める

## ③WAMは事業実施(課題解決)のパートナー

- 助成をする側、受ける側で当初から共通認識をつくることで、相談しあいながらの事業実施が可能となる

